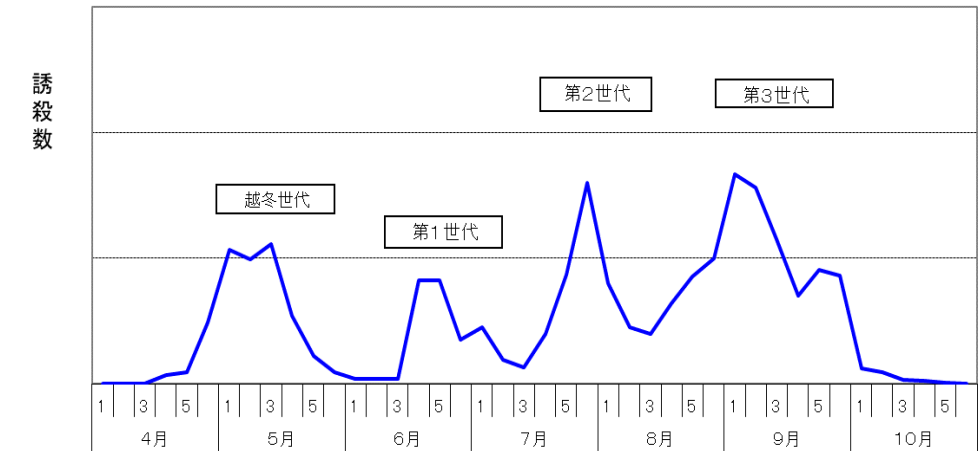


スモモヒメシンクイのフェロモントラップ誘殺消長〔令和8年(2026年)調査〕

病害虫防除部

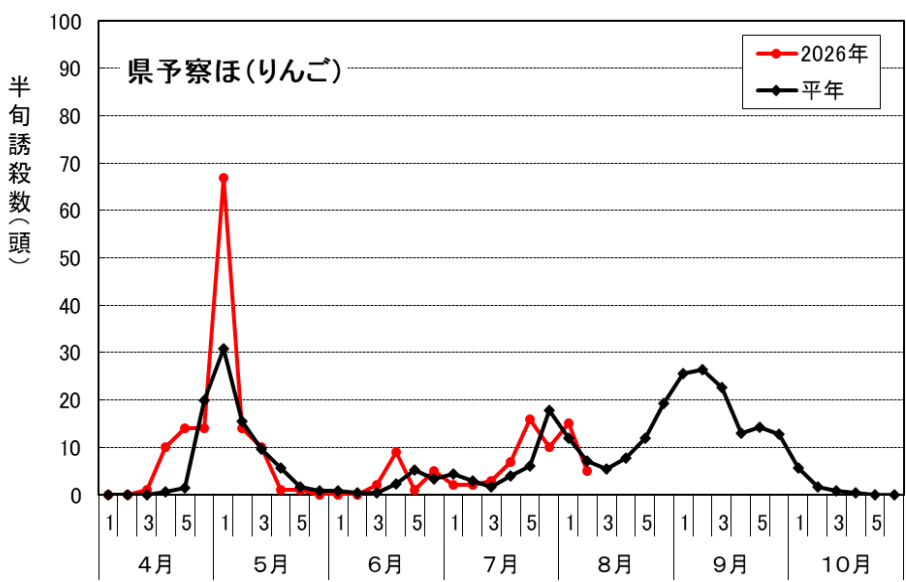
過去10年間の消長模式図（果樹試験場内 県予察ほ）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年3～4回発生する。
- ・越冬世代成虫は4月下旬～5月上旬、第1世代成虫は6月下旬～7月上旬、第2世代成虫は7月下旬～8月上旬、第3世代成虫は9月上旬に発生する。
- ・日本すももは、第1世代、第2世代の卵及びふ化幼虫の防除を行う。
防除適期はそれぞれ5月上旬～6月上旬、6月下旬～7月中旬であり、10～14日間隔で防除する。
- ・りんごは、第3世代の卵及びふ化幼虫を対象に、8月中旬頃から5～7日間隔で防除する。

○県予察ほ（須坂市 果樹試験場）



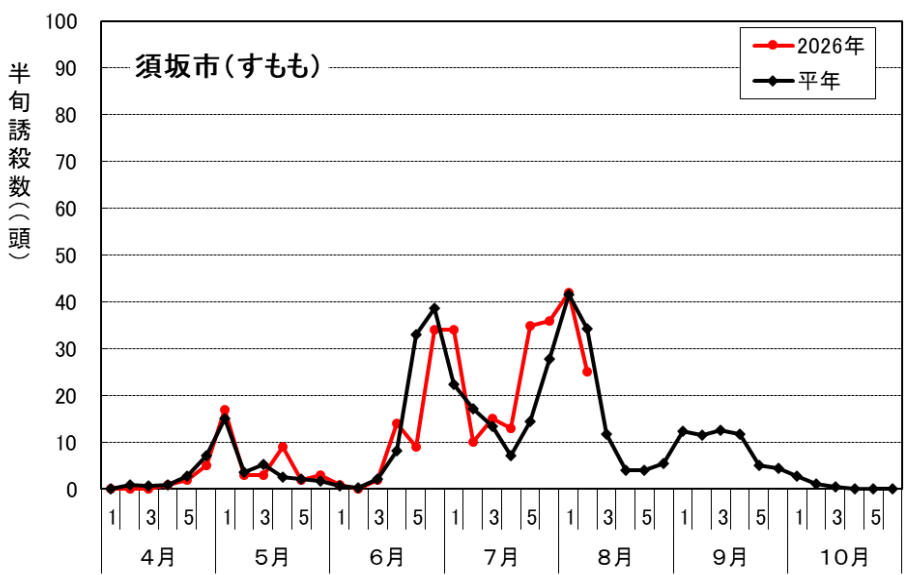
【調査地点】（標高約350m）

- ・須坂市 長野県果樹試験場（りんごほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・7月第4半旬からの第2世代成虫の誘殺と思われる増加は、予想より上昇せず、8月に入り減少した。ほぼ平年と同じ程度の誘殺数となっている。

○須坂市（病害虫防除部）



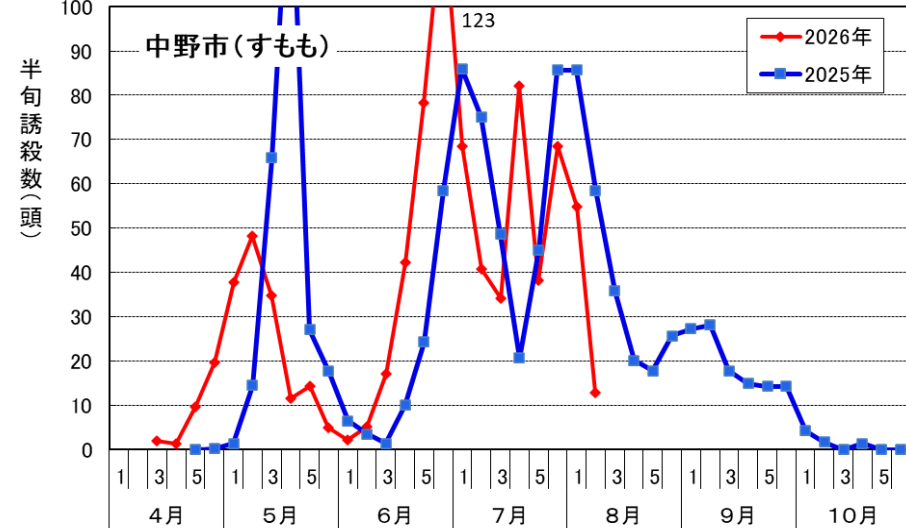
【調査地点】（標高約370m）

- ・須坂市（日本すももほ場）
- ・平年は2016年～2025年の平均値

【コメント】

- ・県予察ほ同様に、7月第4半旬からの第2世代の誘殺数は、それほど大きくならず、こちらも8月に入って減少し、ほぼ平年と同じような発生傾向をたどっている。

○中野市（※北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約350m）

- ・中野市（日本すももほ場）
- ・2024年より設置のため、平年値なし。

【コメント】

- ・引き続き、発生消長の波が大きくなっている。増減の幅が大きい、通常みられる6月下旬から7月上旬のピークと、7月下旬から8月上旬のピークの間に、今年は山がみられた。
- ・8月に入ってから急減している。